

令和3年度地域学校協働活動研修会（前期）

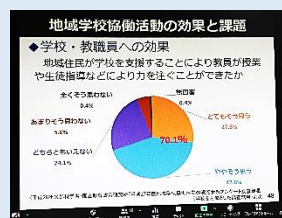
- 1 目的： おかやま子ども応援事業等の教育支援活動を効果的に進めるために、地域連携担当教職員、地域学校協働活動推進員・地域コーディネーター、学校支援ボランティア、放課後・土曜日等支援関係者、家庭教育支援関係者、公民館関係者、行政関係者等の資質の向上を図る。
- 2 主催： 岡山県教育委員会・おかやま子ども応援推進委員会
- 3 日時： 令和3年6月14日（月）13:30～16:00
- 4 方法： 参加校からの個人ログイン（Web会議システム「Zoom」によるリモート開催）
- 5 参加者： 地域連携担当教職員、地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）、学校支援ボランティア、放課後・土曜日等支援関係者、家庭教育支援関係者、公民館関係者、学校・家庭・地域の連携・協働に興味関心のある方、行政関係者等
- 6 日程：

13:00～13:30	受付
13:30～13:35	開会
13:35～15:55	【講演・ワークショップ】 ※休憩を含む
「地域学校協働活動の充実」	
講師 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター いしづ たかね 社会教育調査官 石津 峰 氏	
15:55～16:00	閉会・アンケート



講演・ワークショップ

- 1 学校・家庭・地域の連携関連法令等の変遷
 - ・「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方について」
 - ・学習指導要領改訂と「社会に開かれた教育課程」の実現
- 2 地域学校協働活動とコミュニティ・スクール
 - ・地域と学校の連携・協働の背景
 - ・持続可能な地域社会の基盤づくり
- 3 地域学校協働活動の効果と課題
 - ・子供たちへの効果、学校・教職員への効果、地域への効果
- 4 ワークショップ「取組充実のための計画づくり」のために
 - ・地域学校協働活動実施の課題と課題解決に向けてできること
- 5 まとめ



《感想》

- ・講師の先生のお話が具体的でわかりやすく、地域学校協働本部の理念や目指すことについてイメージができました。
- ・「目指す子ども像」や「目標の共有」など、地域と学校で方向性を確かめたり話し合ったりする場を設けることが大切であると感じました。
- ・地域学校協働活動の意味、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）との関連性、「地域支援」から「地域連携・協働」へと変わりつつあるキーワードを再確認できました。
- ・学校関係者と推進員の両方から多く参加していたので、お互いに生の声を聞くことができよかったです。
- ・オンラインではありましたが、グループでのワークショップがあり、新たな出会いや気付きがありました。大変有意義な時間となりました。